

## 旺文社の自然科学絵本

# 『あまがえる先生 みつけてたべよう！野いちご教室』

～ あまがえる先生と食べられる野いちごを探しに行こう！ レシピつき ～

教育出版社の株式会社旺文社(本社:東京都新宿区 代表取締役 赤尾 文夫)は、日本はもとより世界各地の自然観察をもとに絵本を執筆している自然絵本作家 松岡達英氏の『あまがえる先生 みつけてたべよう！野いちご教室』を2008年4月25日(金)に刊行いたします。

### 【出版概要】

書名: 『あまがえる先生  
みつけてたべよう！野いちご教室』

著者: 松岡 達英

発行: 旺文社

体裁: B4 変型判・上製、32ページ

価格: 本体 1,238 円(税込 1,300 円)

刊行: 2008年4月25日(金)

対象: 小学生(低学年)～

ISBN978-4-01-064609-0

<http://www.obunsha.co.jp/shoshi/symfony/show/code/064609>



あまがえるの里では、野いちごが たべごろをむかえました。  
ネズミの親子と あまがえる先生は、つれだって、  
いちごつみに でかけます。  
ヘビイチゴに クサイチゴ、ナワシロイチゴ……。  
どれがおいしいいちごかな？

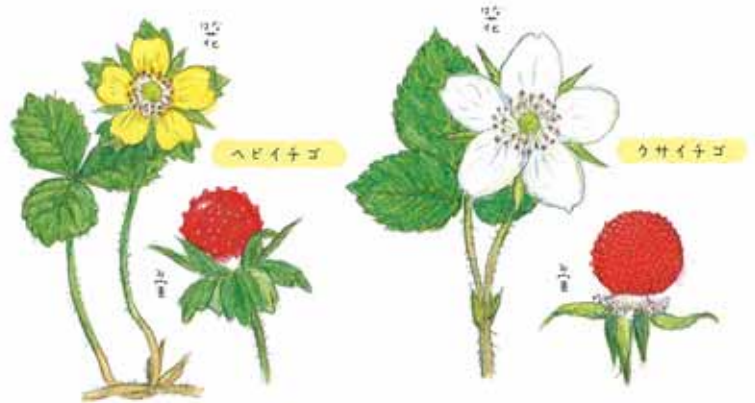


## 【本書の紹介】

松岡氏は、これまで 100 冊以上の自然科学絵本を世に送り出しており、図鑑(自然ジャンル)の詳細イラストも数々手がけています。絵本のテーマは身近な実在の自然で、植物や動物、昆虫などは細部にわたって描かれています。

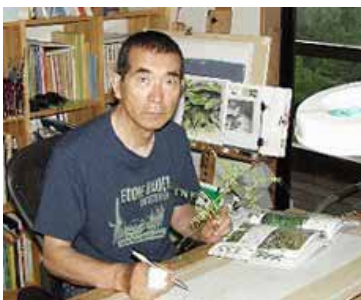
本書はクサイチゴやモミジイチゴなど、川原や森で見られる 6 種類の野いちごを紹介しています。生育場所、花や葉の形などの美しく詳細なイラストで、あまがえる先生やねずみたちと、楽しく自然科学に触れられます。

本書が、純粋な童話絵本として読み継がれていくとともに、里山などを実際に訪れたことのない子どもたちの興味を喚起し、親子での野外探検・ふれあいなどにつながっていくことを願っています。



- 野山で普通に見られる「食べられるイチゴ」を 6 種紹介。
- イチゴの生育場所、花の形、味の特徴を詳しく解説。
- 野イチゴを使った、かんたんレシピつき。

## 【著者紹介】



1944 年、新潟県長岡市生まれ。

北海道から沖縄までの日本各地をはじめ、中南米、アラスカ、オセアニア、東南アジアなど広範に渡る自然観察の旅を背景に、多数の自然科学絵本を描く。

近年の著書に、『あまがえるりょこうしゃ』(福音館書店)、『だんご博士の観察記』(小学館)、『震度 7 新潟県中越地震を忘れない』(ポプラ社)など。アトリエのある新潟・川口町での通年取材、中越地震被災経験をもって、さらに多彩な創作活動を続けている。

以上

## 【会社概要】

社 名: 株式会社 旺文社  
代 表 者: 代表取締役社長 赤尾 文夫  
設 立: 1931 年 10 月 1 日  
本 社: 〒162-8680 東京都新宿区横寺町 55 TEL:03-3266-6400  
事 業 内 容: 教育・情報をメインとした総合出版と事業  
U R L: <http://www.obunsha.co.jp/>

### 【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社旺文社 広報担当: 三澤・山縣  
TEL:03-3266-6292 FAX:03-3266-6045 E-mail: [pr@obunsha.co.jp](mailto:pr@obunsha.co.jp)

## 『あまがえる先生』シリーズ



### 【出版概要】

書名：あまがえる先生  
まよなかのびっくりコンサート  
著者：松岡 達英  
発行：旺文社  
体裁：B4 変型判・上製、32 ページ  
価格：本体 1,238 円(税込 1,300 円)  
初版刊行：2006年4月  
ISBN978-4-01-069179-3

池の研究所にすむあまがえる先生から、コンサートへの招待状がとどいた！それは一晩限りの真夜中の大イベント。池のほとりで始まったコーラスは、なんとモリアオガエルたちの結婚式！自然のしくみとその神秘に迫る、ネイチャーファンタジー絵本。

<http://www.obunsha.co.jp/shoshi/symfony/show/code/069179/side/default>



### 【出版概要】

書名：あまがえる先生  
ミドリ池 きゅうしゅつ大さくせん  
著者：松岡 達英  
発行：旺文社  
体裁：B4 変型判・上製、32 ページ  
価格：本体 1,238 円(税込 1,300 円)  
初版刊行：2007年4月  
ISBN978-4-01-064606-9

ここは、ゆたかなしぜんが広がる、あまがえるの里。地震と日でのえいきょうで、池の水がなくなり、そこにすむいきものたちがいのちの危機にさらされた！そんなとき、あまがえる先生が立ち上がる。まって、かならず たすけてあげるから。

<http://www.obunsha.co.jp/shoshi/symfony/show/code/064606/side/default>

### 読者の子どもたちも熱中！

カエル、ザリガニ、ナマズなど、近所の池や川では当たり前のように暮らしていましたし、子供時代の私も獲りに出かけていたものです。そんな生物達がどんどころにいるのか、どんな生活をしているのか、一応、父親として息子に教えてやらなければなりません。そういった環境の所にはなかなか連れて行くことも出来なかったのですが、この本ならおもしろいと思い、読ませてみました。

(読者Kさん 息子さん6歳)



このページが一番のお気に入りです。



普段、落ち着きのないヤツですが、意外と真剣。



図鑑感覚で楽しめる絵本ですね。絵本を読みながら、ホタルのオスとメスにはどんな違いがあるのか、カエルが夜にどんな声を出して鳴くのかなど生き物の生態についてわかっていくのが面白いようです。姉弟で競い合ってカエルやダンゴムシを指差しています。子どもたちのお気に入りのページは、コンサートを前に研究所でつろいでいる場面です。そこには、ナマズ、オタマジャクシ、ゲンゴロウなど池に住んでいるたくさんの生き物が登場します。保育園の男の子の友だちに紹介しましたが、早速買ってきて楽しんでいるようです。

(読者Aさん お嬢さん5歳・息子さん3歳)